

# 米国における包括的アプローチに関する一考察

## — PBISの視察から —

長江 綾子・山崎 茜・中村 孝・枝廣 和憲・エリクソン ユキコ・栗原 慎二  
(2012年12月7日受理)

## Study on the Comprehensive School Counseling and Guidance Approach in the United States

### — From inspection at PBIS —

Ayako NAGAE, Akane YAMASAKI, Takashi NAKAMURA, Kazunori EDAHIRO,  
Yukiko ERICSON and Shinji KURIHARA

**Abstract.** The purpose of this study is to obtain some ideas about Comprehensive School Counseling and Guidance Approach in the United States from the literature and PBIS inspection. From this inspection and the literature, we learnt 1) Common purpose, information and approach 2) Clear set of positive expectations & behaviors and intervention, 3) Evidence-based intervention, 4) Clear set of evaluation (Check list) system.

Also, in the inspection, we learnt that teachers analysis children's behavior by data from check list in multiple perspectives, and it connects their intervention. We got to see the system to connect this data and intervention.

Like this way, we chanced to see the system with cases, in which data connected with concrete intervention or fixing intervention leading the result.

### 問題と目的

#### 包括的アプローチの重要性

いじめ・不登校等の生徒指導・教育相談上の課題に対する支援は、能力開発的なものから対処療法的なものまで、すでにいくつもの手段が開発・実践され、その効果検証も行われている。しかし、学校の多様な問題を解決するには単一のアプローチでは困難であり、複数のアプローチを統合的に展開する必要がある。このような状況に対し、海外の先進的領域では、1次的支援を中核にして2次的支援と3次的支援を統合した包括的アプローチ (Comprehensive School Counseling and Guidance Approach, 以下, CSCGA) はむしろ一般的である。例えば、オーストラリアVictoria州では、A Whole School Approach for Creating Safe & Supportive School CommunitiesというCSCGAが、香港でも2000年度以降はCSCGAが採用され

ている。また、全米スクールカウンセラー協会 (ASCA) は、CSCGAを推奨しており、州差はあるが、CSCGAが全米で採用されている。

#### 日本における包括的アプローチの課題

日本では、石隈 (1999) は、学校心理学において、児童生徒に対する援助サービスを、その段階によって1次的援助サービス・2次的援助サービス・3次的援助サービス (以下、「援助サービス」を「支援」とする) という包括的アプローチにつながる3つに分けている。2010年6月に文部科学省から出された生徒指導提要においても、この考え方は取り入れられ、集団指導と個別指導の指導原理に「成長を促す指導」(1次的支援)、「予防的な指導」(2次的支援)、「課題解決的な指導」(3次的支援)が示されている。

このように、支援を分けてアプローチする重要

性は示されているが、重要なことは、これらの支援を統合的に行っていくことである。しかしながら、統合的アプローチは、何が効果を生んでいるのかを峻別するのが困難なため、学術的な研究にはなじみにくく、実践も研究も少ない。

しかし皆無というわけではない。栗原・石井・神山・沖林・井上(2009)では、日本でも1次的支援中心のCSCGAが有効ではないかと考え、学校や教育委員会等と連携して実践研究を行い、高い効果を示している。こうした実践をふまえ、栗原・神山は24時間の生徒指導主事対象の教員研修プログラムを開発・実施、その評価研究を行った(長江・栗原・中村・石井・米沢, 2010)。その結果、一定の研修効果は認められるものの、十分ではなく、より効果的な教員研修プログラムの開発の必要性が明らかとなった。また、生徒指導体制として組織的に取組んでいくために、生徒指導体制が機能しているのかという評価が重要になることを示唆している。これに関して栗原・長江・中村・石井・米沢(2010)は、包括的な視点から効果を検討する研究の必要性を述べており、包括的な視点による評価システムの確立が課題であると言える。

評価システムについて、日本では生徒指導提要など、生徒指導・教育相談における理念・考え方は示されているものの、それらを達成するための評価システムが確立されていない。特に、具体的な行動レベルで示されているものは、文部科学省の「欠席30日以上」はあるが、あとは特別支援教育分野や特定の行動に対するチェックリストがある程度で、包括的アプローチをチェックするものやそれを支える評価システムはない。そのため、評価自体が不十分である、評価ツールがあったとしてもそれが児童生徒や学校の改善につながりにくい、教員も取組の効果や今後の見通しを持ちにくく多忙感につながる、という課題がある。

以上のことから、1次的支援を中核としたCSCGAは児童生徒の生徒指導上の課題改善に有効な手段であること、しかし、CSCGAが効果を上げるためには、それを評価するシステムの確立が重要であることが考えられる。しかしながら、この分野での日本の実践・研究は少ない。そこで本稿では、2012年9月14日から9月21日に行われた米国の視察、特にPositive Behavioral Interventions &

Supports (以下、PBIS)の視察から、包括的アプローチと包括的アプローチに関する評価システムについて示唆を得ることを目的とする。

## I. PBIS (SWPBS) の概要

PBISとは、アメリカにおいて包括的アプローチを遂行するシステムのひとつであり、応用行動分析の理論に基づいたPBS (Positive Behavioral Support; 積極的行動支援)を中心にしたものである。特に学校全体における取組 (School-Wide Positive Behavioral Support, 以下、SWPBS)を核としており、このSchool-Wideの視点が包括的アプローチとして重要となる。以下、視察での資料、PBISのホームページを参考にSWPBSについてまとめたものを示す。

### 1. SWPBSとは

SWPBSは、児童生徒の学習や行動の改善を求めるということは、可能な限り最も効果的で正確に導入された構造的で行動的な実践と介入をすべての児童生徒が利用できることを約束するということである。

SWPBSは、これらを達成するためのフレームワークを提供している。そして、より重要なことは、SWPBSは、カリキュラムや介入・実践といったものではなく、すべての児童生徒が学力・行動を改善するために、最良の科学的根拠に基づいた意思決定のフレームワークとして機能する、ということである。

中心理論となっているPBSの特徴は以下の通り。

#### <PBSの特徴>

- ・個人を変えるのではなく、その個人を取り巻く環境を変えることで、個人の反応に変化をもたらす。
- ・指導に対してどう反応しているのか(行動がどう変わったか)をみる。それによって指導方法を変えていく。
- ・罰や排除、カウンセリングといった対応は、問題行動の減少に対する効果は少ないことが示されていることもあり、予防的な対応を大切にしている。
- ・問題行動を減少させるために有効な取組は、ソーシャルスキル教育・カリキュラムの再編(教

科指導での教え方の工夫)・行動に焦点化した介入・反社会的行動パターンに対する早期スクリーニングとアセスメント・学校全体での開発的な取組, である(科学的根拠により示されている)。

- ・望ましい行動というものには教わらなければならない, そして, 練習をしなければならない。
- ・考える順番: 望ましくない行動→原因→おきやすい状況→本当はすべきだった行動→その結果どうなるか予測→すべき行動に向かう構想(望ましくない行動→本当はすべきだった行動, に急にジャンプするとうまくいかないことが多い)。
- ・上記の考える順番をベースに取り組み内容: 誘発する状況を取り除く・直接原因への対応・他の選択肢を考える・連鎖が起きないように対応。
- ・取組始めると1ヶ月は取組を継続し経過をみる。

## 2. SWPBSの4要素と6法則

SWPBSは, 4つの統合された要素から成り立っている(Figure 1)。4つの要素とは, a) 意思決定のためのデータ【DATA】, b) データによって評価・支持されている測定可能な結果【OUTCOMES】, c) これらの結果が根拠となった達成可能な実践【PRACTICES】, d) これらの実践を効率的かつ効果的に実現させるためのシステム【SYSTEMS】, である。

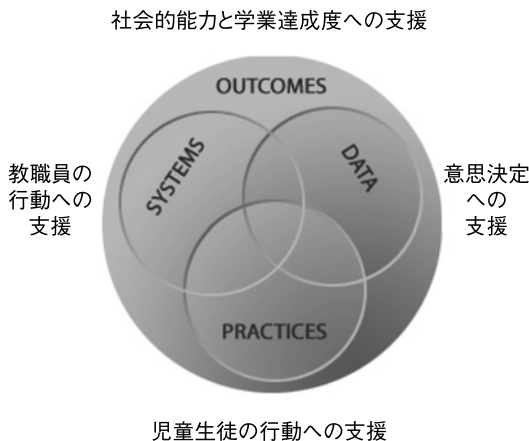


Figure 1 SWPBSの4要素の概念図

また, この4つの要素は以下の6つの重要な法則によって導かれるとされている。

- ・科学的根拠に基づく介入とサポートの開発
- ・意志決定や問題解決におけるデータの活用
- ・問題行動の発生や悪化を防ぐために環境を調整する
- ・向社会的スキルや行動を教え励ます
- ・忠実性があり説明責任をもつ科学的根拠に基づいた行動の実践
- ・児童生徒のパフォーマンスと成長を継続的にモニターし, 広くスクリーンする

## 3. SWPBSの実現にかかわるもの

整合性があり安定したSWPBSが実現可能なシステムを確立している学校は, 以下のものを教授している。

- ・反応, 嫌悪, 危険性, 排他性が少ない
- ・より応答性があり, 予防的であり, 予測性がある
- ・学級経営や規律の問題への呼びかけ(例: 出席・遅刻・反社会的な行動)
- ・より専門的な支援が必要な児童生徒への支援の向上(例: 情緒障害・行動障害・精神衛生)
- ・最も重要なこととして, すべての児童生徒のために学術的なものを活用し, その成果を最大限活かす

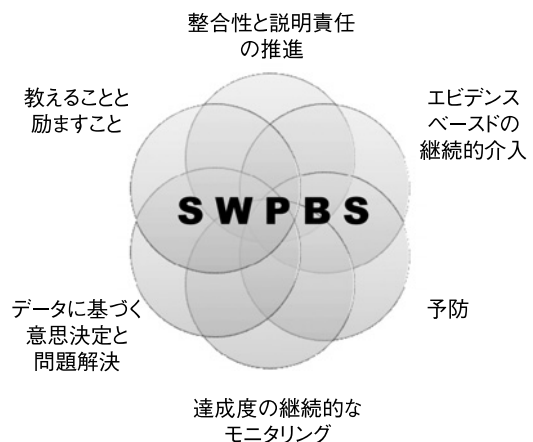
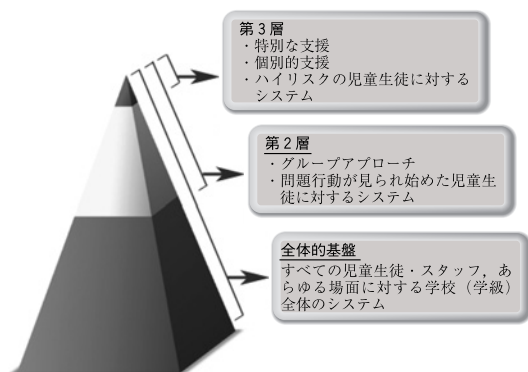


Figure 2 SWPBSの実現にかかわる観点

#### 4. SWPBSの3層構造

SWPBS導入校は、科学的根拠に基づいた行動実践やシステムを集約的または統合し体系化することで、児童生徒は自身の行動の反応性をもとにした介入を体験する。

3層構造の予防の考え方として、まず、全体的基盤（Primary Prevention）において、すべての児童生徒に支援が与えられる必要があるとしている。そして、もし一部の児童生徒の行動が望ましくない場合は、より集中的に行動に対する支援が行われることになる。第2層（Secondary Prevention）では、リスク行動が見られ始めた児童生徒に対してチェックリストやグループアプローチの支援が、第3層（Tertiary Prevention）では、ハイリスク行動が見られる児童生徒に対し専門的で個別的な支援が与えられる。そして、これらの層は単に段階に分かれているのではなく、連続性をもつものであることが強調されている。以下、それぞれの層の詳細について述べる。



##### ① 全体的基盤：すべての児童生徒への介入（Green）

すべての児童生徒に対して、あらゆる場所で提供される予防的・開発的な介入であり、学級全体や学校全体として取り組む。新たな問題行動を減らし、授業時間（より高い能力を身につけるための時間）を増やすことを目標としている。その基盤となるPositive Behaviorへの取組として5つのステップが示されている。また、教師が対応する児童生徒の行動と組織で対応する児童生徒の行動が区別され明文化されている。

そして、全体的基盤チームの任務も明文化されている。

##### 〈Positive Behaviorへの5ステップ〉

- i 行動の定義・明確化
- ii 教える（学校全体・すべての児童生徒）
- iii 見習う（モデリング）・練習する
- iv ごほうび・お祝い
- v 再度教える（第2層・第3層の児童生徒）

##### 〈全体的基盤チームの任務〉

- I 現在のデータに基づいた仕事を実施する
  - ・学校全体のデータ（学力・行動）の検討
  - ・データをもとに必要な介入を計画
  - ・第2層、第3層のチームやPBISネットワークに個人や集団（学級）のデータを提供する（Social Emotional Learningのレッスンの決定やプログラム評価にも活用する）
- II 日程に動機づけられた（則した）仕事を実施する
  - ・新学期始めに行動一覧による、期待される行動規範を教える
  - ・スキルを強化する計画の実施
  - ・ごほうび、お祝い
  - ・再教育
- III スタッフや教育委員会、家族、他の介入チームとのコミュニケーションの場を計画する

##### ② 第2層：問題行動が見られ始めた児童生徒への介入（Yellow：5～20％）

問題行動が見られ始めた児童生徒に対して、今現在生じている問題行動を減らすことを目標としている。この第2層の支援が適切に行われれば、70～80％の児童生徒の行動が改善されるとされている。

##### 〈Check-in/Check-outシステム〉

第2層の対象となった児童生徒は、Check-in/Check-out（チェックイン・チェックアウト、以下、CICO）という行動チェックを受けることになる。

CICOシステムの概要は以下の通り。

- 児童生徒にかかわる複数の教員・スタッフが行動をチェックする。
- 児童生徒にかかわるすべての教員・スタッフは、同じ介入を行う。
- 同じ時間にチェックする。

○学校全体の期待される行動に沿ったものを行う目標にする。

○行動に対するフィードバックは同じ回数で行う。

このCICOは、1日4回行われ、すべてデータ化・グラフ化され、支援が適切かどうかの判断に活用される。

〈SAIGシステム〉

CICOによる支援がうまく行かなかった場合、Social/Academic Instructional Groups (以下、SAIG) というグループを用いた支援を行う。SAIGでは、その児童生徒にかかわる仲間とペア・グループになり、友だちの中でどう行動したらいいのかを学ぶ。友だちをモデルとして期待されている行動について学ばせ、「あなたは学校の一員なんだ、学校の一員として行動してほしいんだ」ということを教える。SAIGの概要は以下の通り。

○3つのタイプのスキルグループによって支援を行う。(これ以上のタイプもある。)

- i) 向社会的スキル
- ii) 問題解決スキル
- iii) 学習行動スキル

○SAIGの支援を受けている児童生徒には、スキルの使い方がどうか、汎化されているかのフィードバックを受けるために、毎日の変化を記録するレポートが活用される。

○教師は児童生徒がそのグループで何を学んでいるのか知っており、そのターゲットスキルに対してのフィードバックを行う。

〈FBA/BIPシステム〉

SAIGの支援がうまくいかなかった場合、Functional Behavior Assessment/Behavior Intervention Planning (以下、FBA/BIP) という行動に対するより専門的な介入が短期間実施される。

〈第2層チームの任務〉

- I 第2層の介入(グループアプローチ)を計画する
- II 介入のデータから介入を見直す
- III 保護者介入やより専門的で集中的な支援が必要な児童生徒を専門スタッフ・介入システムにつなぐ

③ 第3層：専門的な支援が必要な児童生徒への介入 (Red: 5~10%)

より複雑で専門的な介入が必要な児童生徒を対象としており、今現在生じている問題行動から、合併症や重症度を取り除くことを目標としている。個別の介入プログラムが中心となる。

〈FBA/BIPシステム〉

より多領域かつ専門的な行動に対する支援が行われる。FBA/BIPのスタッフには、ソーシャルワーカーやカウンセラー、サイコロジストが含まれる。

〈WRAPシステム〉

この第3層の段階で、保護者の介入が入ってくる。個別支援のケースは、学校・家庭・地域がうまく機能していないことが多いため、これらがうまく機能するために、保護者サポートなど動いていく。シームとして子どもを育てる・つながりを感じる(学校が安心・安全)、ということに基づ盤にひとつひとつ積み上げていく支援を行う。

〈SIMEOシステム〉

第3層の個別支援では、SIMEO (Systematic Information Management of Education Outcomes) というデータ収集・解析ツールが用いられる。このシステムによって、個別支援の計画が立てられたり支援が提供されたりする。

このSIMEOデータはWRAPを支えている。

## 5. School-Wide システムのためのフレーム

PBSが学校全体で機能していくためには、3~5年の期間が必要とされており、以下のフレームが示されている。このように、方針は示されているが(そのためのツールも共通のものが設けられているが)、どのように取り入れ実践していくかは、教員に任せられている。

- ・規律のための目的とアプローチの共有
- ・期待される向社会的行動 (Positive Behaviors) の明確化
- ・期待される行動を教える取組
- ・期待される行動を強化する取組
- ・不適切な行動を阻止する取組
- ・継続的なモニタリングと評価への取組



## Ⅱ．PBIS導入小学校の事例 — School District 15 —

以下、イリノイ州で3番目に大きい第15教育区（District15）のLincoln小学校とFranc C. Whiteley小学校（以下、Whiteley小学校）におけるPBIS導入の事例を、上記のSchool-Wideシステムのためのフレームの観点からまとめる。

### 1. 目的とアプローチの共有

一番のメッセージは「自分は何をしたのか、どんな悪いことをしたのか」を学ぶよりも、『どういふことをしなくてはいけないのか』ということをしなすべし、ということであり、そのためにどうしたらいいのかということが行動レベルで明文化され共有されている（後述参照）。また、「簡単にフレンドリーなことばを使う」ということが共有されており、どの教員でも同じことばを使い、また、これらのことばがそのまま学習言語となっている。このように、簡単に覚えやすく、どんなことが期待されているのかということばを子どもたちに与えることで、行動と学習の両方が並行して豊かになると目的とそのためのアプローチが共通認識として共有されている。

### 2. 期待される行動(Positive Behavior)の明確化

Whiteley小学校では、教室・トイレ・廊下など、それぞれの場所における期待される行動が、敬意を持つ・尊重し合う【Be Respectful】、責任を持つ【Be Responsible】、安全を保つ【Be Safe】、の観点から行動レベルで示されている。これらの行動基準は児童生徒だけでなく、保護者に対しても学校案内において示されている。Whiteley小学校における期待される行動一覧（Behavior Matrix）をAppendixに示す。

### 3. 期待される行動を教える取組

上記の行動基準【Be Respectful・Be Responsible・Be Safe】は、ポスターによってそれぞれの場所に示され、児童生徒が即座に確認できる環境整備がされている。教員が児童生徒に教えることばは、簡単に覚えやすいことばに統一されており、否定形ではなく肯定形で言うようになっている。（例：「走らない」ではなく「ゆっくり歩く」だけ言う。）また、どの教員も同じことばを使うと

いうことになっており、一貫した教育スタイルをとっている。

### 4. 期待される行動を強化する取組

#### ① 校長による朝の校内放送

School-Wideの取組のひとつとして、朝の校内放送で校長が行動目標について話し、「がんばりましょう」と伝え、児童生徒の意識づけがある。児童生徒の行動実態はデータで管理されており、このデータをもとに、ほめたり励ましたりという働きかけをしている。

#### ② ごほうびシステム

Lincoln小学校では、「よくできました」と誰でも書ける小さな紙をそれぞれの教員が持っており、期待される行動が見られたときには、その都度この小さな紙が児童生徒に渡されることになっている。この小さな紙がある程度たまると、児童生徒はシールをもらい、このシールをパネルに貼ることになっている。そして、このパネルがシールでいっぱいになると学校全体でお祝いすることになっている。

また、1ヶ月に97%の児童生徒が何もイエローカード（後述）をもらわなかったときにもごほうびが与えられることになっている。

PBISでは、「悪いことをしたから罰を与える」ということは行わず、必ず「あなたはこの学校の一員である」というつながりと「そのためにどういうことをしなくてはいけないのか」を教える。そのため、不適切な行動をした児童生徒でもごほうびは与えられたり、お祝いを一緒に行うことになっている。

Lincoln小学校には、行動実践委員会（Green Team）というものがあり、この委員会がお祝いやごほうびのお楽しみ会のアイデアを出し開催している。この委員会は教員・児童生徒・保護者に加え、ソーシャルワーカーやスクールサイコロジストもメンバーとなっており、専門的な観点から児童生徒をどのように動機づけたいのかという取組もされている。

前述のPositive Behaviorへの5ステップのiv「ごほうび・お祝い」は行動を強化する取組であり、学校全体（システム全体）としてのごほうびとその時々のごほうびなど、さまざまな行

動を強化する取組が行われていた。

5. 不適切な行動を阻止する取組

① イエローカード・レッドカード

Whiteley 小学校では、不適切な行動をチェックし、管理するシステムが機能している。児童生徒の不適切な行動は Minor Problem Behaviors と Major Problem Behaviors に分けてチェックされる。Minor Problem Behaviors はイエローカードのような警告段階の行動であり、1ヶ月に3つたまると Major Problem Behaviors となり、個別支援（特別支援）の対象となる。Major Problem Behaviors はレッドカードのようなものであり、イエローが貯まるケースもあるが、暴力などの重い行動の場合、即レッドカードが出されることもある。Minor Problem Behaviors のチェックシートは、3つたまるまでは担任が管理し、Major Problem Behaviors の段階になると、そのシートが一部は管理職、一部は保護者に渡されることになっている。これらのチェックシートは、教員・スタッフが持っており、すぐに記入できるようになっている。また、この記録はすべてエクセルでデータ管理されている。この行動アセスメントの流れを Figure 4 に示す。

② 行動チェックシート (CICO)

前述した通り、第2層では、CICO というチェックリストが活用される。

Lincoln 小学校では、Table1 のような行動チェックシートが活用されている (Lincoln 小学校では、Pop-in/Pop-out という名称で実施している)。これは1シートが1週間分で、児童生徒が持ち歩き、その都度かかわる教員・スタッフがチェックしている。児童生徒は教員と目標点を決め、達成度をチェックし、できなかった場合はなぜかを考えることになっている。このシートに記入された点数はすべてエクセルでデータ管理されており、1週間その児童生徒がどのような行動をとったのかがグラフ化され、現在の介入プログラムが適しているのか検討に活用される。改善がみられない場合は、この行動チェックが1日4回から30分に1回と頻度があげられ、より詳細なデータ収集が行われる。なお、この際の詳細なデータ収集は、担任だけでなく、ソーシャルワーカーやスクールサイコロジストなど、かかわるスタッフ全体で行われる。

また、このチェックシートは、児童生徒の「自分で自分を管理する」という意識づけや変化の視覚化ツールとしても有効に活用されている。

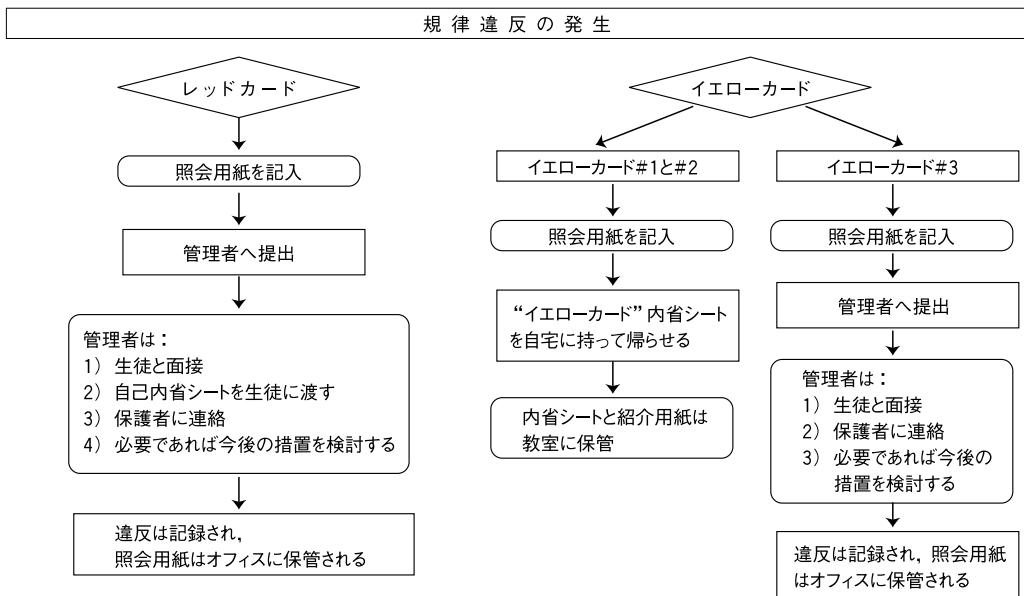


Figure 4 行動アセスメントの流れ

Table 1 行動チェックシート

LINCOLN小学校「ポップ・イン・ポップ・アウト」デイリー／週間レポート

児童名：\_\_\_\_\_

第\_\_\_\_\_週目

2=良い (0-1の声かけで行動した) 1=まあ良い (2-3の声かけで行動した) 0=(自分の目標に到達するのが難しかった)

時間	【安全であること】 手・足・物を自分に留めておく	【敬意をはらう】 親切言葉と行動を使う	【責任をもつ】 指示に従う	教員のサイン
A.M	2 1 0	2 1 0	2 1 0	
P.M	2 1 0	2 1 0	2 1 0	
特別活動	2 1 0	2 1 0	2 1 0	
昼食・休憩	2 1 0	2 1 0	2 1 0	
A.Mチェック・イン：2点 P.M.チェック・イン：2点				
一日の最大得点：28点 一日の目標：22点 本日の得点： 一日の目標到達：はい・いいえ				

### 6. 継続的なモニタリングと評価への取組

Lincoln小学校では、データは各学年で管理されている。例えば、2年生で「外遊びでうまく遊べない」が1ヶ月で10件たまった場合、この時点で2年生は外遊びの方法を教えなくては行けない、というデータとなるため、教員・スタッフ側の行動が決まってくる、という流れになっている。

学年の先生が集まるときには、この学年はこのような状態です、というものがデータでもらえることになっている。そして、これらのデータが学校全体でどうしたらいいのか、という指針になっている。

PBIS (SWPBS) は、時間がかかる取組でもある。Lincoln小学校は、積み上げていって現在6年目の学校である。最初の取組は全体的基盤チームからであり、一般的な子どもたちにどのようなことを教えたらいいいのか、どのようなごほうびを与えたらいいのか、というところから始まっている。その次の年は、第2層の子どもたちとどうかかわったらいいのかという取組を行っていった。そして、これらすべてデータを取り、自分たちに必要なことを積み上げてきている。なお、Whiteley小学校は、現在立ち上げの段階で、全体的基盤チームが始まった段階である。

### Ⅲ. 日本における包括的アプローチへの示唆

#### 1) 目的・情報・アプローチの共有

包括的アプローチ、特に学校全体 (School-wide) によるものは、「チームで動く」という取組は必須である。チーム支援においては、「目的の共有」「情報の共有」「方針の共有」「役割の分担」が重要であるが、今回の視察では、この目的・情報・方針 (アプローチ) 共有化されていた。また、共有するために、これらの内容が明文化されている、チェックリスト体制が整備されている (誰が付けても同じ基準・チェックの仕方も統一) という支える仕組みがいくつも見られた。日本においても学校目標など、目的やアプローチは明文化されている場合も多いが、それが具体的な行動レベルでの取組までつながっておらず、実質的に機能していないことが多い。後述する、行動・取組の明確化の仕組みとともに、目指す目的を実現するためのシステムが整い、一貫した流れがあるということは、包括的アプローチを実現する上で非常に重要な観点である。

#### 2) 行動・取組の明確化

どのような行動が期待されているのか、ということを見習生が具体的に理解できるように、簡単に覚えやすいことばで示されている。また、行



動の観点も3観点に絞られ、ポスターで可視化され、児童生徒の意識づけがされやすい取組が行われていた。このように、行動を明確化・焦点化することで、行動に対するアプローチの効果が上がりやすい取組が行われている。さらに、行動を明確化・焦点化することで、教員・スタッフ側の指導行動も明確化・焦点化され、目的に沿った指導が実現しやすいという効率面においても、行動を具体的に分かりやすく明確に示すという取組が事例から参考になった。

### 3) エビデンスベースによる行動・取組

取組がうまくいっているのか、改善が必要なのかという判断材料にPBISではデータが最大限活用されている。データ収集・解析方法もCICOやSIEMOなど、児童生徒の実態・ニーズによって複数の種類がある。また、データはスクールサイコロジストやネットワークなど専門家によって介入プログラムやプログラム評価の検討に活用される。データはエクセルによって一括管理されており、すぐに児童生徒の実態を把握できるようなシステムになっている。日本においてもデータ収集は行われているが、それが介入につながりにくい現状がある。後述するチェックリストシステムも含め、データが介入につながるようなさまざまな工夫が参考となった。

### 4) 評価システム(チェックリスト)の明確化

前述したデータが最大限活用されるために、データ収集であるチェックリストは簡易化され、また、誰がチェックしても同じチェックになるようなスタイルになっている。さらに、チェックのスケールはすべて「0・1・2」の3段階である、など、統一されており、比較検討も容易にできるよう工夫されている。日本では、チェックリスト自体は存在するものの、独自のチェックリストであることが多く、統一したチェックリストはまだ少ない。同じ情報を共有し、方針を共有するためにも、このようなデータに支えられたシステムは、包括的アプローチを実現させるために重要なことである。また、前述したように、データはプログラム評価においても活用されているということであ

った。

プログラム評価の詳細については今回の視察ではあまり知見を得ることはできなかったが、児童生徒の行動を多面的に詳細に評価するシステムがあり、それが実際の介入に密につながっているということが、具体的な事例とともに見ることができたことは意義あることであった。

しかしながら、このような評価システムを活用し介入ができるようになるための教員・スタッフに対する研修や対策については今回の視察では十分にみることができず、今後の詳細にみていく必要がある。

### 引用・参考文献

石井眞治・井上弥・沖林洋平・栗原慎二・神山貴弥編著 2009 児童・生徒のための学校環境適応ガイドブック 一学校適応の理論と実践一、協同出版。

石隈利紀 1999 学校心理学 誠信書房。

栗原慎二・長江綾子・中村孝・石井眞治・米沢崇 2010 生徒指導主事を対象とした研修プログラムの開発的研究(2)ー生徒指導主事の自己評価と学校長評価の関係からー 広島大学大学院教育学研究科紀要第一部学習開発関連領域, 59, 157-166

文部科学省 2010 生徒指導提要

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/22/04/1294538.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/22/04/1294538.htm) (2010/09/29 閲覧)

長江綾子・栗原慎二・中村孝・石井眞治・米沢崇 2010 生徒指導主事を対象とした研修プログラムの開発的研究(1)ー広島市の生徒指導主事研修プログラムの事例からー 広島大学大学院教育学研究科紀要第一部学習開発関連領域, 59, 167-174

### 参考ウェブサイト

PBIS ホームページ

<http://www.pbis.org/> (2012/09/10 閲覧)

本研究は、科研費の助成を受けたものである。科研費番号【23330204】

Appendix 行動一覧

	教室	外での 休み時間	屋内での 休み時間	体育館	コンピュー ター室	図書館	トイレ	廊下	カフェ テリア	集会	学習 予備時間	登校・ 下校	バスの列	バスの 乗降車
敬意を もつ 尊敬し 合う  Be Respectful	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふさわしい言葉遣いと声の大きさと話すこと</li> <li>手を挙げる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふさわしい言葉遣いと声の大きさと話すこと</li> <li>順番を守り、ほかの友だちを仲間に入れてあげること</li> <li>トイレに行くときは、監督者からバスをもらってから行くこと</li> <li>校庭にある遊具や施設を大切にすること</li> <li>笛が鳴ったら、直ちに動作を止め、静かにすること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふさわしい言葉遣いと声の大きさと話すこと</li> <li>コンピュータゲームで遊ぶときは順番を守ること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふさわしい言葉遣いと声の大きさと話すこと</li> <li>質問するとき、回答するとき、手を挙げる</li> <li>備品、設備を大切にすること</li> <li>笛が鳴ったら、直ちに話をやめること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふさわしい言葉遣いと声の大きさと話すこと</li> <li>手を挙げて自分の順番を待つこと</li> <li>資料、展示物、本は大切に扱うこと</li> <li>コンピュータ機器は丁寧に扱うこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふさわしい言葉遣いと声の大きさと話すこと</li> <li>資料、展示物、本は大切に扱うこと</li> <li>トイレの設備を大切に使うこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふさわしい言葉遣いと声の大きさと話すこと</li> <li>建物で大事にすること</li> <li>よいマナーを心がけること</li> <li>掲示板や壁に貼られた掲示物を大切にすること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふさわしい言葉遣いと声の大きさと話すこと</li> <li>列に並び、順番を守ること</li> <li>自分のお弁当、給食だけを食べること</li> <li>笛が鳴ったり、誰かがマイクで話しているのが聞こえたときは、すぐに話をやめること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話をしている人を見ることが</li> <li>応援や拍手を心がけること</li> <li>自分のお弁当、給食だけを食べること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>静かに作業をする</li> <li>質問がある場合は、手を挙げる</li> <li>昼食をとるカフェテリアに向かうときは、列の最後に着くこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>静かに作業をする</li> <li>質問がある場合は、手を挙げる</li> <li>昼食をとるカフェテリアに向かうときは、列の最後に着くこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歩いて、列の最後尾に並ぶこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歩いて、列の最後尾に並ぶこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他人のスペースや持ち物に対して敬意をもつこと</li> </ul>
責任を 持つ  Be Responsible	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての課題を完成させ、提出すること</li> <li>質の高い学習をすること</li> <li>自分の机の周りをきれいに保つこと</li> <li>クラスの規則に従うこと</li> <li>宿題ノートを毎日使用すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>天気に着した服を適用すること</li> <li>個人的な持ち物（ゲーム・玩具・運動器具）は、学校に持ってこないこと</li> <li>ブラクトップ、ビット、遊び場に関する規則を守ること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教室内において、ふさわしい活動をする（読書・宿題、ゲームなど）</li> <li>終わったら片付けをすること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育館内の備品や設備は、監督者がいるのみ使用すること</li> <li>適切な靴と服装を着用すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キーボードやマウスは正しく使うこと</li> <li>ヘッドフォンは丁寧に扱うこと</li> <li>コンピュータを使うときは、きれいな手で扱うこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本に何か問題があった場合は、リソースセンターの先生に知らせること</li> <li>本は決められた場所、または本棚の一番上に戻すこと</li> <li>本は期限内に返却すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用時に注意すること</li> <li>使用後は流すこと</li> <li>一番近いトイレを利用すること</li> <li>ペーパータオルや石鹸は、必要な量だけ使うこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的地までまっすぐに歩くこと</li> <li>廊下はきれいに保つこと</li> <li>持ち物はすべてロッカーに入れておくこと</li> <li>ランチャボックスはランチャビン（クラス別の大きな箱）に戻し、ごみはゴミ箱に持ち帰ること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>質問のときは手を挙げる</li> <li>退出時間になるまで、席に着いていること</li> <li>自分の場所を片付けをすること</li> <li>ランチャボックスはランチャビン（クラス別の大きな箱）に戻し、ごみはゴミ箱に持ち帰ること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>足を組んで座るときは（胡坐をか）</li> <li>先生の指示があるまで席を立たないこと</li> <li>（ジャケツを含め）必要なものはすべて持つこと</li> <li>最後まで課題に取り組み、質の高い学習を心がけること</li> <li>終了時には、自分の持ってきたものを忘れず持ち帰ること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定されたドアから入り、目的地向かって速やかに歩くこと</li> <li>自分の持ち物は、自分で管理すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の持ちはすべて自分で管理すること</li> <li>自分のバスの移動し始めるまで、カフェテリアで待つこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>バスの乗り降りは、一列に並んで歩いて行うこと</li> <li>座席にきちんと座っていること</li> </ul>	
安全を 保つ  Be Safe	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の人に手や足を出した</li> <li>教室に入るときは、常に歩いて入ること</li> <li>席を離れるときは、椅子を机の下に戻すこと</li> <li>一日の終わりに、椅子を注意しながら積み重ねること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の人に手や足をしたり、物を使って邪魔をしないこと</li> <li>何か問題が生じた場合は、監督者へ知らせること</li> <li>校舎への立ち入りは、一列になつて歩くこと</li> <li>席を離れるときは、椅子を机の下に戻すこと</li> <li>うろうろせず、一定の場所で作業をすること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の人に手や足をしたり、物を使って邪魔をしないこと</li> <li>教室を出るときは許可をもらうこと</li> <li>何か問題が生じた場合は、監督者へ知らせること</li> <li>うろうろせず、一定の場所で作業をすること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の人に手や足をしたり、物を使って邪魔をしないこと</li> <li>常に大人の指示に従うこと</li> <li>体育館出入りの際は、歩くこと</li> <li>何か問題が生じた場合、直ちに先生に知らせること</li> <li>席を離れるときは、椅子を机の下に戻すこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の人に手や足をしたり、物を使って邪魔をしないこと</li> <li>常に大人の指示に従うこと</li> <li>コンピュータ室への入り退室の際は歩くこと</li> <li>指定されたウェブサイトとプログラムのみ、閲覧・実行すること</li> <li>席を離れるときは、椅子を机の下に戻すこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の人に手や足をしたり、物を使って邪魔をしないこと</li> <li>図書館用のステイックは、本の保管場所の確認のみに使用すること</li> <li>席を離れるときは、椅子を机の下に戻すこと</li> <li>手を洗うこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の人に手や足をしたり、物を使って邪魔をしないこと</li> <li>使用後は、きれいに保つこと</li> <li>手を洗うこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の人に手や足をしたり、物を使って邪魔をしないこと</li> <li>前を向き、廊下の右側を歩いて歩くこと</li> <li>ゆっくりと注意して歩くこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の人に手や足をしたり、物を使って邪魔をしないこと</li> <li>走らず、常に歩くこと</li> <li>常に自分の席に着いていること</li> <li>カフェテリアへの出入りは、一列で歩くこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の人に手や足をしたり、物を使って邪魔をしないこと</li> <li>席を離れるときは、椅子を机の下に戻すこと</li> <li>退室するときは、許可をもらうこと</li> <li>どこに行く場合は、一列で歩いて移動すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の人に手や足をしたり、物を使って邪魔をしないこと</li> <li>校庭内では、走らずに常に歩くこと</li> <li>常に大人の指示に従うこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の人に手や足をしたり、物を使って邪魔をしないこと</li> <li>カフェテリアへの出入りの際は歩くこと</li> <li>まっすぐ指定されたバス列に向かうこと</li> <li>列が動き出すまで中に座って待つこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の人に手や足をしたり、物を使って邪魔をしないこと</li> <li>常に大人の指示に従うこと</li> <li>通路には常に障害となるものがないようにすること</li> <li>食べ物や飲み物はかばんの中にしまっておくこと</li> </ul>	